

関心の高まる「米の作況」について記者懇談会で広く発信！

新米供給への関心が高まるなか、米の作況に関する情報発信と報道機関における農業情勢に対する理解増進に向け、記者懇談会を開催。

〇 施策分類

広報

〇 きっかけ・背景、課題の把握

令和6年8月以降、全国的に米の品薄状況が顕在化したことで新米供給への関心が高まるなか、報道機関を通して県内へ米の作況に関する情報を広く発信すること、そして報道機関における県内の農業情勢に対する理解増進を目的に記者懇談会を開催した。

〇 取組の内容

作物統計調査「令和6年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量」について、全国の作況指数は平年並みであったものの、静岡県は気象の変動が重なった結果、全国最下位となったことを丁寧に説明した。また、調査で使用する道具や被害粒の例などを展示し、実際に現物を用いながら調査方法について解説した。さらに、拠点発刊の広報誌や拠点が収集した県内の新規就農者の取組事例についても、報道関係者が取材先を選定する上での参考として情報提供を行った。

〇 効果・成果、今後の方向性

記者懇談会には、新聞社3社（記者4名）が参加。後日、静岡新聞と中日新聞において、懇談会時の説明内容を含む記事が掲載された。今後も継続して記者懇談会を開催するとともに、県政記者室への投げ込み等を活用し積極的に報道関係者へ情報提供を行うことで、県内へ農政情報を広く発信していきたい。



▲調査で使用する道具（縦目ふるい）や被害粒・未熟粒を展示し、実物に実際に見ていただきながら説明。

農作物を作ってみよう！（富士市）

お名前	川口 浩貴さん（40歳）
就農した時期	2018年9月（就農6年目）
栽培面積と農機	心谷 1ha 心谷 20a 心谷 10a
農機	5トン型トラクター、3A
農機手	本人、アルバイト2〜3名

● 成長したきっかけ
農業は、人と自然との共生。環境にやさしく、安全でおいしい米を育てたいという思いから、農業を志すようになった。最初は、地元で農業を営む方からノウハウを学び、徐々に規模を拡大していった。

● 農政情報や農業政策の活用
農政情報や農業政策の活用は、非常に重要。特に、米の作況や収穫量に関する情報は、経営に直結するため、常に最新の情報を収集している。

● 今後の目標や取り組み
今後の目標は、より良い米を育て、地域に貢献すること。そのために、最新の農業技術や品種を導入し、品質向上に取り組んでいる。

● 新規就農者支援に役立てたい
農政情報や農業政策の活用は、非常に重要。特に、米の作況や収穫量に関する情報は、経営に直結するため、常に最新の情報を収集している。

▲ 拠点が収集した県内の新規就農者の取組事例（拠点HPIに掲載）についても紹介。

体制図

静岡県拠点

今年の米の状況は…？

記者懇談会で、米の作況について丁寧に説明

農政情報について積極的に情報提供

報道機関

説明内容を新聞に掲載。広く県内へ発信

①

県内消費者

③